

第八回 a s のマスター

1. さまざまな as のまとめ。

(1) 「a s + A (名詞)」という場合の as は前置詞で、基本的に「_____」と訳せばいい。ただし例外として

① such A as B 「_____」 = A such as B

② the same A as B 「Bと同じA」

③ as + A (人生の(過去の)成長段階) 「_____」

(ex) As a child, he was happy.
子供の頃、彼は幸せだった

それから「S + V A as B」となる場合、Bの部分に「形容詞」が入ることもある。

(ex) We regard the situation as serious.
我々は事態を重大視している (形)

ちなみに「S + V A as B」型の構文は「AをBとみなす[思う]」となることが多い(asは前後をイコールの意味関係で結ぶ記号と見ることができる)。

(2) 「a s S + V ~」という場合の as は、

① そのような場合の as は、70%は「_____」か「_____」。
だからまず「時」「理由」で訳してみてもおかしかったら、次の可能性を考えてみる。

④ ③ただ、「時」のasが文章後半に現れた「S₁ + V ~, as S₂ + V ~」の場合、「S₁はVした。とそのときS₂はVした」と訳す場合があるから注意。

(ex) They were chatting happily, as the hall door opened.
彼らは楽しげにおしゃべりをしていた。とそのとき玄関のドアが開いた

② 「a s S + V ~」の「V」が「_____」「_____」を表す動詞の場合(又は比較級が使われている場合)には「_____」「~と共に(に伴って)」と訳せばいい。

(ex) get [become/grow等] C (形・分) 「Cになる」 go 「行く」
grow up 「成長する」 pass 「すぎる」
increase 「増える」
decrease 「減る」

③ 上記以外の as の意味は、「_____」「_____」「_____」。
ただし、このような意味になる場合、as の後ろが

1. 直前と同じ形の繰り返しになっている。

2. 「_____」になっている。

ことがほとんど。

(ex) You must do the work as I do.
君はわたしがするようにその仕事をしなければならない

Men usually like wrestling as women do not.

女性とは違って、男性はふつうレスリングが好きだ

◎「～とは違って」となる場合、上例のように、asの前後で肯定が入れ代わっていることが多い。

- ④ 「□ as S+V, 」という構造になっている場合は「_____」と訳せばいい(まれに「～なので」と訳すこともある)。

□の部分には名詞、形容詞、副詞、動詞が入る。

(ex) Young as he was, he was so brave.
(形) as S+V 彼は若かったけれど、勇敢だった
=Though he was young,
=Young though he was,

◎場合によっては「Sは□なので」と、「理由」を表すこともある。どちらになるかは、文脈で判断する。

◎□の部分に名詞が入る時は、無冠詞にして置く。

(ex) Though she was a child, she was brave.
=Child as she was, she was brave.

◎□の部分に動詞が入って「(たとえ)どんなに～しても」という意味になることもある。

(ex) Try as she does[will/ may/ might], she never seems able to do the work satisfactorily.
どんなにやっても彼女は決して満足にその仕事ができそうにない

- ⑤また、直前の名詞を修飾する「as S+V～」もおさえておきたい。

(ex) Language as we know it is a human invention.

S ↑ V
└──┬──┘ 我々の知っているような言語は人間の創り出したものだ

the English language as (it is) spoken in America

↑ [過去分詞]
└──┬──┘ アメリカで話されている英語

I like Mt. Fuji as (it is) seen from Shizuoka prefecture.

静岡県から見た(場合の)富士山が私は好きだ

◎上の英文では、「as+過去分詞」の as～prefecture が、直前の Mt. Fuji を修飾している。このようにas直後のS+Vが省かれることも多く、したがって「as+形容詞・分詞」という形を見たら、直前の名詞を修飾しているといえることも多い。

- ⑥これ以外に「as ～ as A: Aと同じくらい～」といった原級比較で用いられるasがあることは言うまでもない。

- ⑦ as を用いた決まり文句的なものもおさえておこう。

(1) _____ 「Aにはよくあることだが」

(2) as is usual with A 「Aにはいつものことだが」

◎(1)(2)の as は、品詞的には関係代名詞。

(3) as it (so) happen 「たまたま」

(4)[Just] as S+V~, so S+V… 「[ちょうど]～なように、…」

(ex) Just as British people enjoy their beer, so the Japanese enjoy their sake.

イギリス人がビールをたしなむように日本人は酒をたしなむ

④so S + V…のS + Vは「so V [do/does/did] S」の形になることもある。

④Just as S + V～ は「ちょうど～するときに」という意味になる場合もある。

(ex) Just as I finished the work, she called me up.

ちょうど私が仕事を終えた時に、彼女が電話をかけてきた

「ちょうど～なように」という just as との見極めは、「ちょうど～するときに」となる場合、同語反復(による省略)は起こらないという点。

(5)as for A「Aに関する限りでは、Aはどうかという」と =as far as S + V～

(ex) Mary has few close friends. As for John, he is always surrounded by friends.

メリーには親友がほとんどいない。ジョンはどうかと言えば、いつも友人に囲まれている

(6)as if [though] S + V～「まるで～かのように」

(ex) Tim acts as if he were a king.

ティムは王様のようなふるまいをする

④to不定詞を伴った「as if to do[原形]～:まるで～するかのように」もおさえておこう。

(7)as A goes「[as の前に通例コンマを置いて] (世間並みの)Aとしては」

④「平均してみれば」という意味を含み、善悪の価値判断についていうことが多い。

(ex) He is a good doctor, as doctors go these days.

今の医者としては、彼は良い医者だ

(8)as it is

1. 「[文頭で](だが)実情は(そうでないので)、実際のところは」

④通例前述の仮想と対照して用い、前に but を置くこともある

(ex) I'd like to have seen you today. As it is, I will wait until tomorrow.

今日お会いしたかったのですが、お会いできませんでしたので、明日まで待ちます

2. 「[文中・文尾で] 現状は、実際問題として、もうすでに」

3. 「[文(節)尾・目的語の後で] そのままにして、そのままの(に)」

④指すものによって it が他の人称代名詞に is が are や過去形にも変わる。副詞的に動詞を修飾したり、また形容詞的に後ろから名詞(目的語)を修飾する場合もある。

(ex) I'll take it away as it is.

それはそのまま持って帰ります

Come as you are.

そのまま[ふだん着で]お越しください

Everything is arranged as it was[used to be] when I lived there.

私がそこで暮らしていたときのままに全てが配置されている

(9) as it turned out, S + V ~ 「結局のところ、～」

(ex) As it [things] turned out, she was never there.
結局のところ彼女はそこにはいなかった

(10) as it were 「いわば」 ☞ as it was とは言わない。so to speak より堅い表現。

(ex) In many ways children live, as it were, in a different world from grown-ups.
多くの点で子供は、いわば大人とは違った世界で生活している

(11) as of A 「Aの時点で、A現在で(の)」
「A(日時)から」 = as from A

(ex) as of now = right now, now, at present
現在のところ

The population of our city is about one hundred thousand as of Jan. 1, 2001.

2001年1月1日現在我が市の人口は約10万人である

As of midnight tonight the contract becomes effective.

今夜12時からその契約は効力を発する

(12) as such

1. 「そういうものとして、それなりに」

(ex) She is a practical nurse and should be treated as such.
彼女は準看護婦だからそのように取り扱われるべきである

2. 「[主に否定文で] それ自体で(は)」

(ex) Money, as such, does not always bring happiness.
金はそれ自体では必ずしも幸福をもたらすとは限らない

3. 「[主に否定文で] 「厳密な意味での」
「というようなご大層な代物(しろもの)」

(ex) My room isn't a study as such.
私の部屋は書斎などというご大層な代物なんかではありません

(13) such as it is 「こんな[そんな]程度のものだが、つまらぬものだが」
☞ 複数のものを指す場合は it is は they are となる。

(ex) She gave me her help, such as it was.
あまり役にもたたなかったが、彼女は私を援助してくれた
My services, such as they are, are entirely at your disposal.
あまりお役に立ちませんが、私を好きなようにお使いください

(14) as with A

1. 「Aの場合と同様に」

(ex) As with people, rodents are individuals.
人間と同様に齧歯(げっし)類は個々に活動する

2. 「のように」 = like

(15) as opposed to A 「Aとは対照的に[な]、Aとは全く異なって」
「Aに対するものとしての」

(ex) expenditure as opposed to income
収入に対しての支出

(16) go so far as to do【原形】～「～しさえする」

(ex) She went so far as to say I was a coward.
彼女は私が臆病者だとさえ言った

(17) as yet 「今までのところではまだ」

(ex) Nothing has been done as yet.
今までのところ何もなされていない
As yet we have had no applications.
今までのところは応募がありません

2.以下の英文を和訳せよ。

- ① I don't know the reason he didn't stay at home as he had been told?
- ② It began to snow just as I got off the bus.
- ③ You will see the police station as you cross the bridge.
- ④ As Jane had studied Japanese for five years, she spoke it well.
- ⑤ Child as he was, he knew what he was doing.
- ⑥ I had completely misjudged the situation, as I later discovered.
- ⑦ Sally is working as a secretary in the office.
- ⑧ As one grows older, one comes to appreciate real important things in life.
- ⑨ As you are leaving last, please turn out the lights.
- ⑩ In the eighteenth century, as in the fifteenth, great social changes took place.
- ⑪ The English language as spoken in America is different from that in England.
- ⑫ As a young man, Mr. Takahashi had taught Japanese in Germany.

⑬ He was Catholic, as were not most of his friends.

⑭ He whistled as he went along.

⑮ That would be impossible, as I have already explained to you.

3.以下の英文を和訳せよ。

- ① Busy or tired as the parents may be, they should try to answer their child's question why he should do the things they demand of him.
- ② Apart from the value to the child, this is a salutary discipline for the parents themselves; ③ for, called upon to give reasons, they must themselves have good reasons before telling him to do this or that,
- ④ otherwise the child loses confidence in them.

《語句》 demand A(物) of B(人): AをBに要求する
try to do[原形]~:~しようと(努力)する
apart from A:①Aは別にしても ②Aに加えて(更に)
value:価値、意義、有益(であること)
salutary(形):有益な
discipline:訓練、しつけ、規律
lose confidence in A:Aに対する信頼を失う、なくす
call upon to do[原形]~:~してくれと頼む、求める
good reason:十分な理由(根拠)
reason:①理由 ②理性 ③物の道理、分別
otherwise(副):もしそうでなければ

【解答&解説】

1.

- ①彼が言われたように家にいなかった理由がわからない
- ②バスをちょうど下りたときに雪が降りだした
- ③橋を渡ると派出所が見えるでしょう
- ④ジェーンは五年間日本語を勉強しているので、日本語がとてもうまい
- ⑤彼は子供だったけれど、自分のやっていることがわかっていた
- ⑥後になってわかったことだが、私は状況を完全に誤って判断していた
- ⑦サリーは事務所では秘書として働いている
- ⑧人は年を取るにつれて人生の中での本当に大切な物の価値が分かってくるものだ
- ⑨あなたが最後に出るのですから、明かりを消してください
- ⑩15世紀と同様に、18世紀において大きな社会変革が起きた
- ⑪アメリカで話されている英語はイギリスで話されている英語とは異なる
- ⑫若い頃、高橋さんはドイツで日本語を教えていた
- ⑬彼のほとんどの裕司とは違って、彼はカトリックだった
- ⑭彼は歩きながら口笛を吹いた
- ⑮既にあなたに説明したように、それは不可能でしょう

3.

①

Busy ~ may be までは「□ as S+V,」の形をしており、これは「Sは□だけれど」と訳す構文です。

📖LESSON BOOK REVIEW 44ページ (注3) を参照せよ。

それから question と直後の why節は同格関係になっており「どうして~なのかという疑問」と訳さなければなりません。

📖LESSON BOOK REVIEW Rule-61 2. を参照せよ。

the things they demand of him の部分は「名詞 S+V」の形で they ~ him を the things にかけて「親が子供に対して要求すること」と訳します。

📖LESSON BOOK REVIEW Rule-52 を参照せよ。

そうすると全体は「親というものは、たとえ忙しかったり疲れていたとしても、親が子供に対して要求しているものを、なぜ子供はすべきなのかという子供の質問に答えてあげるようにすべきだ」となります。

②

文頭の Apart from ~ は「~に加えて、~だけでなく」。それがわかれば後は問題なかったはず。「それは子供たちにとっても価値があるだけでなく[有益なだけでなく]、親自身にとっても有益な訓練となるのである」となります。

③

出だしの for は接続詞で「というのは~だからだ」という意味。call~reasons までの挿入句を()でくくると、they must themselves have という S+V が見えてきます。for S+V~ となる場合の for は接続詞になるんです。

called~reasons までは分詞構文で、ここは「時」もしくは「条件」を表していると思えばいいでしょう。

📖LESSON BOOK REVIEW Rule-37 を参照せよ。

そうすると全体は「というのは、もし理由を答えるよう求められれば、あれこれ子供に命令する前に、親自身が十分な理由を持っていないからである」となります。good は「十分な」と訳すことがあります。特に reason の前に置かれた場合は必ずそう訳します。覚えておきましょう。

④

ここは語句さえわかれば問題ないですね。「そうでなければ子供は親に対する信頼をなくしてしまうのである」となります。

【全訳】

「親というものは、たとえ忙しかったり疲れていたとしても、親が子供に対して要求しているものを、なぜ子供はすべきなのかという子供の質問に答えてあげるようにすべきだ。それは子供たちにとっても価値があるだけでなく[有益なだけでなく]、親自身にとっても有益な訓練となるのである。というのは、もし理由を答えるよう求められれば、あれこれ子供に命令する前に、親自身が十分な理由を持っていないからである。そうでなければ子供は親に対する信頼をなくしてしまうのである」